

# 竜巻注意情報の精度

気象庁

# 竜巻注意情報の精度 (平成20年3月26日～令和3年12月31日)

											一次細分区域単位での発表				
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
<b>適中率</b> (括弧内)は最大瞬間風速20m/s以上の事例を含めた適中率	9% (22%)	5% (30%)	5% (26%)	1% (18%)	3% (25%)	4% (24%)	2% (22%)	4% (24%)	4% (25%)	2% (18%)	3% (28%)	4% (28%)	3% (31%)	3% (28%)	
<b>捕捉率</b> [括弧内]はF1以上の捕捉率	24% [31%]	21% [67%]	34% [67%]	21% [20%]	32% [40%]	42% [38%]	27% [33%]	35% [78%]	34% [50%]	38% [36%]	44% [33%]	33% [38%]	29% [25%]	42% [57%]	
<b>発表回数</b>	172	128	490	589	597	606	604	402	372	909	648	331	349	427	
<b>突風回数</b> [括弧内]はF1以上の回数	70 [13]	34 [6]	67 [6]	39 [5]	50 [10]	59 [21]	37 [6]	48 [9]	44 [14]	45 [11]	48 [12]	39 [8]	41 [8]	36 [7]	

令和2年及び3年の竜巻注意情報の精度は速報であり、後日変更する場合があります。

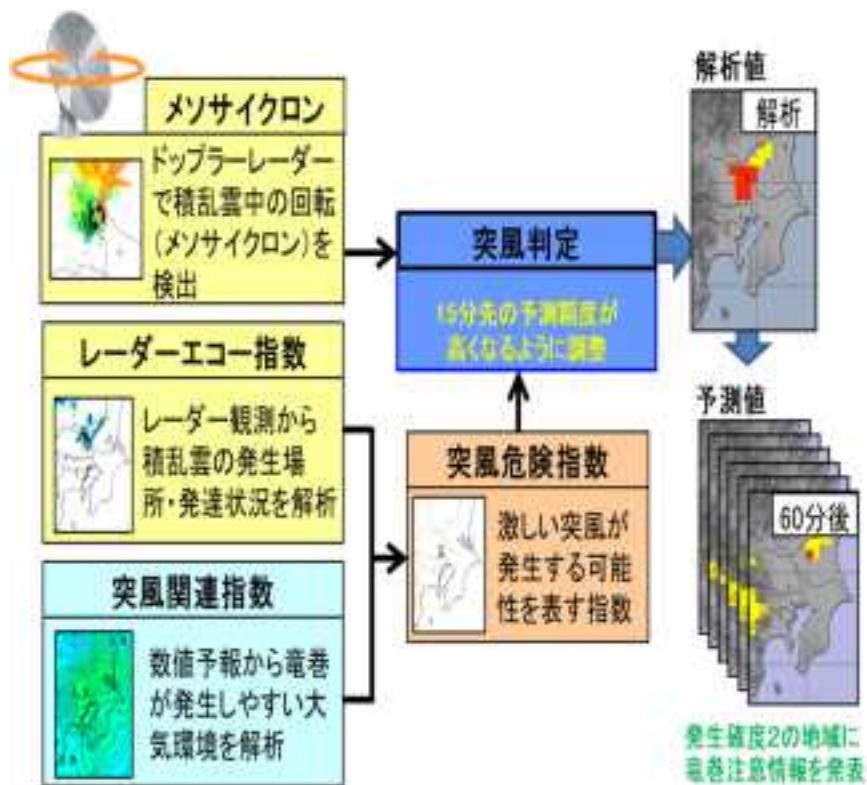
**適中率** : 竜巻注意情報の発表数のうち、有効期間内に突風の発生があった発表の数の割合  
発表中にどのくらいの割合で突風が発生したかを表し、情報の信頼性やユーザーの経済的効率に影響

**捕捉率** : 実際に発生した突風回数のうち、竜巻注意情報が予測できた突風の数の割合  
どのくらいの割合の突風を捕らえられたかを表す防災上重要な指標

最大瞬間風速20m/s以上の事例を含めた適中率: 突風が発生するか、もしくは対象県内のアメダス観測で最大瞬間風速が20m/s以上を記録した場合に適中とみなした割合

平成28年12月15日より一次細分区域単位での発表を開始し、平成29年以降は1年を通して一次細分区域単位で発表

# 竜巻発生確度ナウキャストの更新（一次細分区域単位での発表以降）



## 平成28（2016）年12月15日

- ・国土交通省高性能レーダ雨量計ネットワーク（XRAIN）をメソサイクロン検出に活用
- ・竜巻等の突風の発生メカニズムに関する新たな突風関連指数を導入
- ・竜巻注意情報の発表において15分のリードタイムを確保するようにアルゴリズムを調整
- ・一次細分区域単位での竜巻注意情報の発表を開始

## 平成30年（2018）年10月17日

- ・予測式（突風危険指数）の作成に用いる突風事例を増やすなど予測式作成時の過学習対策を実施
- ・突風判定時の突風危険指数とメソサイクロン検出の複合判定を採用するなど竜巻注意情報の発表回数の抑制策を実施  
（前回更新時は突風危険指数のみによる単独判定を採用）

## 令和2年（2020）年12月14日

- ・海外で開発された新たな突風関連指数を導入
- ・局地モデル（LFM）を用いて計算した突風関連指数を導入